

生活科学習指導案

1. 日時 令和2年9月

2. 場所 1年〇組教室

3. 学年・組 第1学年〇組

4. 単元名 かぞくにこにこ大きくせん

5. 単元目標

家庭生活と学校生活に関わる活動を通して、家庭や学校での楽しみ、家庭や学校における自分の生活や役割などについて考えることができ、家庭や学校での生活は互いに支え合っていることがわかり、家庭や学校の一員として、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりすることができるようにする。

6. 教材観

家族や家庭の一員としての自分について目を向けさせ、家族一人ひとりがかけがえない存在であり、支え合うことで家庭生活が成り立っていることに気づくことのできる単元である。学校でも同様にそれぞれが工夫し支え合うことで生活をよりよいものにしたという意欲につなげていくことができる。調べたり、自分なりに考えたりした内容について互いに交流し合う活動では友だちの考えのよさに気づくことができる。

7. 児童観
略

8. 指導にあたって

単元の最初にプログラミング的思考を意識した活動を取り入れ、児童自身が活動をよりよいものにしていく経験をさせる。プログラミング的思考とは、意図する活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要か、どのように組み合わせたらいいのか、さらにどのように改善していけばよりよい活動になるのかを論理的に考えることである。

考えを交流する場面では、自分の考えた行動の順序を付箋に書いて並べさせ、考えの共有を図る。意見交換後も付箋を並び替えて順序を変更することを可能にする。「学校での帰りの準備を素早くするためにはどんな順序がよいのか」を考えさせ、なぜその順序にしたのか理由を考えさせる。理由を考えることでより主体的に学校生活を過ごしていこうとする意欲につなげたい。

単元の後半では、自分の家庭生活を工夫するという活動を仕組む。自分の生活をよりよくするために、自分ができる家庭での仕事を考えさせる。仕事を行う上でやりやすい順序や家庭生活のどの部分に組み込むと継続して取り組みやすいかなどプログラミング的思考を生かして考えさせていきたい。さらに仕事内容については、自分なりの工夫が生かせるものを選びさせていきたい。

本単元を通して、自分の行動を見直し、工夫していくことで生活がよりよくなることに気づかせていきたい。

9. 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|---|--|
| <p>①日常生活において、健康や生活のリズムを大切にしている。</p> <p>②自分でできることが増える喜びや家庭や学校での自分の役割、家族と交流することのよさや楽しさが分かっている。</p> <p>③家庭生活と学校生活に関心を持つ活動を通して、家庭や学校での生活は互いの支え合いで成り立っていること、自分も家庭や学校を構成する大切な一人であることに気付いている。</p> | <p>①家庭生活を思い起こし、家族のことや、自分のこと、自分がしていることについて表現している。</p> <p>②自分の作戦を振り返りながら、継続して取り組みたいことを決めている。</p> <p>③これまでの自分の作戦について、目的などに応じて伝えたいことや伝え方を選んで紹介し合い、自分の役割を意識してこれから頑張りたいことなどを表現している。</p> | <p>①家族がにこにこになってほしいという願いをもって、自分でできることに繰り返し取り組んだり、家族と交流したり、学校生活をよりよいものにしようとしている。</p> <p>②自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けたりするようになった自分に自信をもって、生活しようとしている。</p> |

10. 指導計画（本時1/9）

| 時間 | 学習活動 | 評価規準 | 評価方法 |
|--------------|---|-------------------------------|--|
| みんなの一日を調べよう。 | | | |
| ①本時 ② ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・学校での生活をふりかえろう。 ・家庭での生活をふりかえろう。 ・調べたことからわかったことを交流しよう。自分ができる仕事をみつけよう。 | <p>知①</p> <p>態②</p> <p>思①</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・発言分析、ワークシート分析 ・行動観察 ・発言分析、ワークシート分析 |
| できることにちょうせん | | | |
| ④ ⑤ ⑥ | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭のために自分のできそうなことを考え、取り組む。（実際に家庭で取り組むのは時間外活動） ・家族がにこにこになるための作戦を振り返り、継続して取り組みたいことを決め、実際に取り組む。（実際に家庭で取り組むのは時間外活動） ・継続して何度も取り組む中で工夫したことや気付いたことなどをまとめる。 | <p>思②</p> <p>態①</p> <p>知②</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・発言分析、ワークシート分析 ・ワークシート分析、行動観察 ・発言分析・ワークシート分析 |
| ⑦ ⑧ ⑨ | <ul style="list-style-type: none"> ・家族がもっとにこにこになるために自分が取り組んできたことを紹介し合い、これからの「にこにこせいかつ」について考える。 ・これまでの活動全体を振り返り、頑張ったことやこれから取り組みたいことをまとめたり伝え合ったりする。 | <p>知③</p> <p>思③</p> <p>態②</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・発言分析・ワークシート分析 ・ワークシート分析、発言分析、行動観察 ・ワークシート分析、発言分析、行動観察 |

1 1. 本時の目標

学校生活をよりよくすることに関心を持ち、帰りの準備を早くするためには、どんな活動の順序がよいか自分なりに考えようとする。

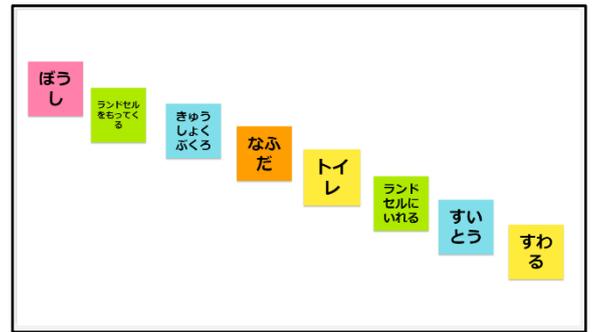
1 2. 本時の学習

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点○と評価☆ |
|---|--|---|
| | 1. 本時のめあてと課題を知る。 | ○普段の帰りの様子を撮影した動画を見せ、気付いたことを発表させる。 「すごく時間がかかっている」 「みんな大声で話している」 「もっと素早く用意できると思う」 「もっと早く用意しないと帰りのバスに乗り遅れる子がでるかもしれないな。」 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> もっとすばやくよいにするためにはどうすればいいだろう </div> | | |
| | 2. 帰りの準備での行動を確認する。 | ○帰りの行動を全員で確認し、共有する。 |
| | 3. 電子上の付箋を並び替え、帰りの準備が素早くできる順序を考える。(※資料1参照) | ○混雑を避ける・効率がよいなど順序を考える時のポイントに気付かせる。 ○コロナ禍において注意すべきことも意識させる。 ☆日常生活において、健康や生活のリズムを大切にしている。(知①・発言、ワークシート) ○自分が考えた順序に沿って頭の中で行動をたどらせる。 ○行動の順序の根拠を持たせるために理由を考えさせる。 |
| | 4. 友だちの考えを聞き合う。(※資料2参照) | ○なぜその順序にしたのか理由を言わせ、自分なりの考えを持っていることを認め合わせ、実際行動する際に想起させやすくさせる。 ○交流をもとに順序を再考させる。 ○クラスメートに意見を共有する際、アンケート集約ツールを活用する。 |
| | 5. 実際に帰りの準備をする。 | ☆自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けたりするようになった自分に自信をもって、生活しようとしている。(態②・行動観察) |
| | 6. 振り返る。 | ○今日の活動を振り返り、家庭生活で考えたい課題を考える。 |

(資料1) 1人1台端末を活用し、児童が付箋を並び替える。

《手順》

- ① 教員が子どもたちの発言をもとにワークシートを作成(右図)
- ② 教員端末から児童の端末へワークシートを配布
- ③ 児童が端末内で帰りの準備の順序を試行錯誤
- ④ 児童同士が、お互いの考え方を共有



(資料2) アンケート集約ツールで意見を共有する。

《手順》

- ① 教員が電子アンケートを作成(右図)
- ② 教員端末から児童の端末へアンケートを配布
- ③ 児童がアンケートに回答する。
(可能であれば、理由も書き込む。)
- ④ 児童同士が、お互いの考え方を共有・見える化

かえりのじゅんぴ なにからはじめる？

- ランドセルをもってくる
- きゅうしょくぶくろ
- トイレ
- ランドセルにいれる
- ぼうし
- なふだ
- すいとう
- すわる